

石川県立美術館だより

平成20年1月1日発行 第291号

明けましておめでとうございます。

本年もよろしく願い申し上げます。



所蔵品紹介 一八四

いろえさらさまんふたつきかざりつぼ
色絵更紗文蓋付飾壺

とみとけんきち

富本憲吉

明治十九年（一八八六）～昭和三十八年（一九六三）

昭和三十年（一九五五）

胴径二十二、一cm 底径十三、五cm 高十七、五cm

「模様から模様をつくらない」というのが富本憲吉の基本姿勢でした。流通している意匠を安易に使用せずにオリジナリティーを追求しようとする姿勢は、大正から昭和にかけてのやきものの絵付けの世界においては、斬新なものでした。加賀の地で九谷の伝統と色絵の技法を研究するなど、石川県にもゆかりの深い富本のこうしたモットーは、現代の陶芸に大きな影響を与えました。

この作品のモチーフはテйкаカズラという蔓草で、香りの高い白の五弁の花を咲かせます。富本は幼年時代にこの花の中心に糸を通して息を吹き、風車のように回して楽しんでたことを後年回想しています。

そうした記憶が、この花を連続する意匠にしてみようという考えのきっかけになったのでしょう。富本はそこです、五弁を四弁にするとともに先端を中心に向けて折り曲げるなどの工夫を行います。さらに実際の絵付けに際しては、陶器用の小ロクロに素地をのせて、左手でロクロを回転させながら描けば正確、かつ迅速に描けることを発見しました。

筒状の形ならば、そうした作業はさほど困難ではないかも知れませんが、この作品は複雑な曲面です。それだけに意匠の大きさの単位を計算し、さらに蓋と身など全体の調和を醸し出すには、高度な造形感覚が求められます。そして、この作品にはそうした富本の技が見事に結集され、優美で品格ある作品に仕上がっています。

新年のごあいさつ — 新しい博物館像を求めて —

館長 嶋崎 丞

新しい年を迎えるに当たり、新年のごあいさつを申し上げます。本年は当館にとつてリニューアル後の開館の年であり、また昭和五十八年に開館して二十五年目という大きな節目の年にも当たります。この節目の年を一つの切っ掛けとして、新しくスタートをしなければならぬと考えています。

いま日本の美術館や博物館は、社会の大きな変革の影響を受けて揺れ動いています。美術館を含めての博物館（以下博物館という）は社会教育法の第九条で「社会教育のための機関とする」とうたわれていますが、人々が博物館に求める機能は実に多様化、高度化し、従来の博物館の概念ではくることが出来ない程になってきました。しかしそうした状況の中にあつて、私共博物館の実務を担当する者にとつて、忘れてならないことは、利用者に対してサービスを提供する機関であるということだと思つています。博物館は社会教育の機関であると同時に、文化的、知的なサービスを提供する機関でもあるということです。従つて利用者がサービスに享受しようという意欲を喚起する存在でなければなりません。

では博物館のサービスとはどのようなことでしょうか。まず、最初に考えられることは、施設の充実です。当館は現在リ

ニューアル工事中で本年八月中までには完了する予定です。喫茶部門やミュージアムショップも大々的に拡充され、憩いの場を提供する予定です。

博物館のサービスで重要なことは、博物館が本来行つてきたことで、資料を展示して、鑑賞や観察の機会を利用者に提供することです。資料充実の為の収集が行われ、調査研究を実施し、その結果を展示していくことですが、この極当たり前のことが一番難しいサービスではないかと思つていますが、大いに努力していかなければなりません。そして展示に直接結びつくことですが、分かり易い展示を心掛けるということです。常に利用者の立場に立った展示の在り方を工夫していくということだと思つています。

次に展示されている作品の解説活動です。このことは近年特に心がけ、列品解説、解説カードの在り方など、利用者の声に耳を傾けながら努力していますが、ご意見をぜひお聞かせ下さるようお願いいたします。

次に考えられるサービスは、展示活動に直接関係のない総合的なサービスです。当館では開館当初より二百名収容のホール、六十名収容の講義室を設置し、講演会や講座、研究会、コンサートなどを実施し、美術文化活動の拠点としての役割を

果たしてきました。今回のリニューアル工事では、さらに施設の充実を計つています。ホールの各席には今までなかったテーブルを設置し、視聴覚機器の充実、講義室の多目的利用のための内部改造などを実施し、幅広い活動にも対応出来る運用を考えています。

さらに最近では、多くの利用者から体験的な活動が求められる時代になってきました。茶道美術品を使用して茶会を開くなど、すでにいくつかの美術館では実施されており、当館でも昨年十月上旬のミュージアムウィークで開催し好評を博しました。また作品をガラスケース越しではなく、じかに鑑賞する、出来れば直接手に触れてみる機会なども設定できないか、それにはそうした活動に対応出来る施設造りも美術館周辺に求められないかを目下思案中です。また数年前から学校現場への出前講座も高い評価をえており、今後とも充実実施していきたいと考えています。

今日の博物館活動は、博物館側が企画した内容を利用者に対して一方的に提供する時代ではなくなってきました。博物館の当事者と利用者が一体となつて、ともに考えて新しい博物館を創っていく時代になってきたように思います。博物館の本質とは何かを常に意識し、知の楽しみを分かちあう博物館活動を実施展開することが求められています。多くの方々への参加を期待し、ご意見をお寄せくださるようお待ちしております。

変わります
ただ今リニューアル進行中



通用口の桜の老木ともお別れ



見慣れたホールも工事中



収蔵庫内風景
大事な作品を保護します



1月の行事案内

■県立生涯学習センター(3階35号室) 金沢市広坂2丁目1番1号 石川県広坂庁舎1号館

■午後1時30分より ※入場無料

月 日	行 事	内 容
1月13日(日)	美術講座	あの日本画家 田中 一村 能登にて天井画を描く! (末吉守人 学芸第1課担当課長)
1月20日(日)	美術講座	保存の話—あれこれ (宮 衛 学芸第2課長)

9月以来、工事に伴って休講となっていた美術講座を再開します。石川県立美術館学芸員による「美術 あんな話・こんな話」という総合テーマのもと、それぞれの学芸員の専門分野から、とっておきのお話を準備しています。

作品の引越しも終え、学芸員は一段落といったところですが、休

館するとこれまでなかったような仕事が次々と現れてきて、一息入れる暇をなかなか見つけられません。それでも久しぶりとあって、美術講座にはそれぞれ力が入っているようです。

なお、この講座は石川県民大学の教養講座として単位認定がなされます。大勢の方々の参加をお待ちしています。

文化財現地見学旅行の報告

本年2回目となる文化財現地見学旅行は、京都市内の美術館・博物館と宝塚の美術館を訪ねました。9月下旬に行われた本年第1回の見学旅行が、寺社の文化財を中心とした内容であったこともあり、第2回目は美術館・博物館施設を中心に見学することを検討しました。幸い京都において、国立博物館をはじめ、あちこちの美術館で、さまざまな特別展が企画されていたので、その中から注目の展覧会やこれまであまり訪れたことがないような見学先をセレクトしました。

1日目の午後、最初の見学地となったのは、京都北西部衣笠にある京都府立堂本印象美術館です。この美術館は、その名称のとおり日本画壇の重鎮であった堂本印象が生前に建てた展示施設で、没後、京都府に作品とともに寄贈されたものです。今回は印象の作品とともに、かつて絵描き村と呼ばれた衣笠の地で制作活動を行っていた福田平八郎、徳岡神泉、小野竹喬、山口華楊といった文化勲章を受章した画家たちの作品が展示されていました。それぞれの個性豊かな作品とともに、印象が考えたというその建物のユニークなデザインに驚かされました。

次に訪れたのは、臨済宗相国寺派の大本山相国寺に附属する承天閣美術館でした。京都五山の一つ相国寺は、室町時代に足利義満によって建立され、以来、時の権力者との関わりの中で伝えられた文化財が数多く伝えられています。「相国寺の禅林文化」と題して相国寺派の鹿苑寺、慈照寺に伝わった名品も含め、墨蹟・絵画・工芸の選りすぐりの作品が展示されていました。中でも七尾出身の長谷川等伯の重文『竹林猿猴図屏風』は、水墨画でありながらほのかな光を感じさせ穏やかな空間の広がりを見事に表現していました。



初日の最後には、岡崎公園の一角にこぢんまりと佇む細見美術館を訪れました。この美術館は、大阪の実業家・細見家三代のコレクションを展示公開しています。当日は、明治から昭和前期にかけて京都で活躍した神坂雪佳の、絵画、工芸作品、図案などが一堂に展示されており、琳派に傾倒しながら明快でモダンな独自の様式を築いたその芸術の真髄を堪能することができました。

2日目の午前、京都国立博物館を見学しました。桃山画壇の覇者として日本美術史上に輝かしい足跡を残した、狩野永徳のスケール感豊かな金碧花鳥の障壁画をはじめ、華やかな雰囲気を持つ風俗画や力強い筆さばきをみせる水墨山水の屏風絵など、永徳の代表作を網羅する大回顧展が開かれていました。当日はその最終日ということで、大変な混雑が予想されたのですが、朝早めに訪れ約2時間鑑賞することができました。とはいっても会場内はやはり多くの人で、間近でゆっくり見ることができにくく、また常設展の方にもたくさんの名品が出ていたのですが、そこまで見るにはやはり時間が足りなかったようです。

その後、京都を立ち最後の訪問地・宝塚へ足を向けました。昼食をとった後、清荒神清澄寺鉄斎美術館を訪れました。富岡鉄斎は最後の文人といわれ、独特の豊かで味わいがある作風で知られていますが、89年の長い生涯に雅友とも呼べる多くの知友を得、彼らのために自作の書画を贈って交遊を愉しみました。当日は、雅友に贈られた作品を中心に様々な資料を加え、鉄斎の人生を豊かに彩った広範な交友関係を見る内容の展覧会が開催されていました。学芸員の方の詳細な解説を聞きながら作品を鑑賞し、鉄斎の人物像が身近に感じられました。

今回の現地見学は、秋の行楽シーズンにあたり、道路や訪問先の混雑が予想されたのですが、ほぼ予定どおりに無事に回ることができました。これもひとえに参加者の皆さんのご協力と関係者の方々のご努力の賜とあらためて感謝する次第です。

ミュージアムレポート

学校出前講座 どこでもミュージアム

イン 中央小・宇出津小・松波小

教育普及事業の一環として「どこでもミュージアム」と題し、学校へ当館の所蔵品を持って行き作品鑑賞を行う「学校出前講座」。11月2日に金沢市立中央小学校、11月8日に能登町立宇出津小学校、11月9日には能登町立松波小学校を訪問し、作品鑑賞授業を行ってきました。



中央小学校は6年生3クラスと作品鑑賞を行いました。写生会終了後の授業だったので、出前作品は絵画でも風景画を中心に16点を鑑賞しました。各時間の後半には、各自で自由に作品を鑑賞する時間も取り、好きな作品・気になる作品についても発言してもらいましたが、自分の言葉で話することに大変慣れている子が多く、こちら側が驚くほど上手に作品を見ての感想を述べてもらえました。

今年度初の能登地区となる宇出津小学校・松波小学校へは絵画・彫刻・浮世絵など全部で15点を出前しました。画材などの説明を混ぜながら、宇出津小学校では3～6



年生全クラス、松波小学校では全校生徒と鑑賞授業を行いました。どの児童も真剣な眼差しがとても印象的で、こちらからの問いかけに、作品から受けた素直な感想をたくさん発言してもらえました。宇出津小学校では児童や教職員に混じってPTAの姿もみえました。「学校や、家庭で美術館を訪れた経験がある児童が少ない中、作品を間近で鑑賞できる素晴らしい機会を学校内で持て、貴重な経験となりありがとうございました。」という感謝の言葉を頂きました。

それぞれの場所で、限られた時間内での作品鑑賞ではありましたが、児童や教師の皆さんからたくさんの感動の言葉を頂きました。ありがとうございます。休館中は多くの学校にお邪魔し、美術に親しむ時間を設けたいと思います。



当館作品が見られる展覧会

◆加賀の伝統美

石川県立美術館所蔵名品展

新潟県立近代美術館

平成19年11月23日(金・祝)～
平成20年1月14日(月・祝)

- | | |
|----------------------------------|--------|
| <input type="checkbox"/> 青手樹木図平鉢 | 古九谷 |
| ◎色絵梅花図平水指 | 野々村仁清 |
| 色絵草花図絵替長皿 | 尾形乾山 |
| ◎四季耕作図 | 久隅守景 |
| <input type="checkbox"/> 楨絵図 | 俵屋宗達 |
| 千鳥蒔絵香合 | 松田権六 |
| 友禅黒地吉祥文振袖 | 木村雨山 |
| 砂張銅鑼 | 初代魚住為楽 |
- など138点

◆九谷古陶磁名品展

珠玉の石川県立美術館コレクション

石川県九谷焼美術館

平成19年11月3日(土・祝)～
平成20年3月2日(日)

- | | |
|----------------------------------|------|
| <input type="checkbox"/> 色絵鳳凰図平鉢 | 古九谷 |
| <input type="checkbox"/> 色絵布袋図平鉢 | 古九谷 |
| 色絵鶴文平鉢 | 吉田屋窯 |
| 色絵芦翡翠図平鉢 | 松山窯 |
- など30点

【◎=重要文化財 □=県指定文化財】

◆石川県立美術館所蔵品による

「ひと・人・ヒト」

小松市立宮本三郎美術館

平成19年12月8日(土)～
平成20年3月9日(日)

- | | |
|--------|------|
| 酔燕台翁 | 伊東深水 |
| 1982年私 | 鴨居 玲 |
| フードの女I | 高光一也 |
- など20点

◆七福神と祝うお正月

石川県輪島漆芸美術館

平成20年1月1日(火・祝)～
1月28日(月)

- | | |
|----------|--------|
| 蒔絵十二支図硯箱 | 伝五十嵐不尽 |
| 蒔絵鼠図印籠 | 山本春正 |
| 三福神図 | 岸 駒 |
- など7件



三福神図 岸 駒 石川県輪島漆芸美術館「七福神と祝うお正月」より

石川県立美術館だより 第291号
2008年1月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号 Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp>